

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ラオスにおける障害者に対する職業訓練等による就労支援を通じ、障害者の社会的・経済的自立を促進する。併せてそのための職業訓練指導員を養成する。
(2) 事業内容	<p>2011年5-6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオス障害者就労支援センター立ち上げ ・研修内容打ち合わせ、研修準備 ・第一回車椅子製造研修生募集 <p>第一回車椅子製造研修は、すでにある程度の知識、技術をもっている障害当事者を対象とし、主に、障害当事者の職業訓練をおこなっているシークッド職業訓練校の機械科、バイク修理科の卒業生に声をかけ研修生を募った。現状では訓練校を卒業しある程度の技術はあっても経験を積む場所がないため、田舎に帰って自宅にいるケースが多い。こうした若い年代の障害当事者を対象とした。</p> <p>2011年7月-10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回車椅子製造研修開催 7月5日～13日 9日間 <p>研修生6名、講師2名、当センター研修・技術訓練担当スタッフタイで車椅子会社を運営しているタイ人講師と日本の福祉機器販売・レンタル会社大分タキ会長を講師に迎え、ラオス人障害当事者6名に車椅子製造研修を行った。研修生のほとんどはシークッド職業訓練校の機械科の卒業生。前半4日間は車椅子製図、後半5日間で車椅子1台を製造。</p> <p>研修終了後、4名が当センターに残り、引き続き当センター研修・技術訓練担当スタッフにより車椅子製造技術、またその他の機器修理、金属溶接などの技術指導を受けた。</p> <p>この間 NRC (National Rehabilitation Center) の車椅子約20台をはじめ個人の車椅子修理などを研修の一環として行った。</p> <p>9月までに第一回車椅子製造研修生6名のうち4名が、ピエンチャン市内の自宅でバイク修理業、市内のコンピュータ修理会社などに就職。1名帰宅、1名は引き続き就労支援センターでの車椅子修理などにかかわっており、起業の準備をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回ビジネスセミナー開催 8月6日 <p>シークッド職業訓練校在校生、教員10名、海外NGOのラオス人スタッフなど3名、第一回車椅子製造研修生6名、計研修生19名。講師はタイの車椅子製造会社社長、そのスタッフ、タイ社会労働省障害者支援課課長、大分タキ会長。また日本で車椅子製造の研修を受けた障害当事者のプレゼンもおこなった。</p> <p>車椅子会社社長とそのスタッフによるビジネスセミナー(起業方法、Web広告の重要性、接客方法など)</p> <p>タイの障害者支援課課長によるタイのバリアフリーについて。</p>

	<p>セミナー後、研修生と ADDP スタッフによる意見交換の場をもった。今回のセミナーからどのようなことを学んだか、今後どのようなセミナーが必要とされているか、シークッド職業訓練校卒業後に各自どのような計画をもっているか、など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子製造研修、ビジネスセミナー以外の期間、希望する研修生は当センターに滞在、研修・技術訓練担当スタッフとともに引き続き車椅子製造、修理依頼を受けた車椅子の修理をおこなった。またラオス社会でのニーズが高い金属溶接の技術、テレビ等の機器修理技術についても当センター滞在期間中に技術訓練をおこなった。 ・障害者就労支援事業として就職先の紹介をしている団体やシークッド職業訓練校の教員と連絡をとり、希望する研修生には就職先の紹介をした。
(3) 達成された効果	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回車椅子製造研修生6名のうち4名がビエンチャン市内の会社に就職。1名が当センターでの車椅子製造修理訓練継続（指導員として育成）。 ・ビジネスセミナーでは車椅子製造・販売ビジネスで成功している障害当事者からの話を聞き、モチベーションの向上につながった。 ・本事業はラオスの障害者支援の中でも異色の事業であり、10月までにラオスで障害者支援事業をおこなっている NGO など3団体から視察があり数回にわたって情報交換の場を持った。こうした他団体からも注目されている事業である。
(4) 今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子製造研修を今後4回予定。第5回目はタイ人指導者がオブザーバーとして育成されたラオス人指導者が中心となり研修を組む予定。 ・地方で障害者就労支援事業を行っている各団体と連携、研修生の受け入れ。 ・ビジネスセミナーを実施。ラオスで事業を行っているラオス人を講師に迎える。各回約20名。ビジネスプランの立て方、マネジメント、またビジネスへの心構えについてなど。対象はシークッド職業訓練校、また市内で働いているラオス人障害当事者、他。 ・企業また該当省庁の担当者を対象に、障害当事者を取り巻く環境について、就労事情についてなどのセミナーを実施予定。また、研修生の中で近々起業を志す者も出てきており、実際に小さな店を構えて独立を希望する障害者のロールモデル的な存在の研修生が今年中に誕生する予定である。